

平成26年度

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

高岡市民病院事業会計決算の概要(案)

- (1) 患者数の状況
- (2) 収益的収支の状況
- (3) 資本的収支の状況

高岡市民病院 経営管理室

(1) 患者数の状況

項 目			平成26年度	平成25年度	対前年度増減		
					増 減	率 (%)	
患 者 数	入 院	延べ患者数	118,230 人	131,620 人	▲ 13,390	▲ 10.2	
		診療実日数	365 日	365 日	0	0.0	
		一日平均患者数	323.9 人	360.6 人	▲ 36.7	▲ 10.2	
	外 来	延べ患者数	216,357 人	229,837 人	▲ 13,480	▲ 5.9	
		診療実日数	244 日	244 日	0	0.0	
		一日平均患者数	886.7 人	942.0 人	▲ 55.3	▲ 5.9	
	計		334,587 人	361,457 人	▲ 26,870	▲ 7.4	
	病床利用率 (476床)			68.0 %	75.8 %	▲ 7.8	ポイント
	平均在院日数			14.3 日	16.1 日	▲ 1.8	日
実入院患者数			7,722 人	7,670 人	52	人	

- (1) 入院患者数は、年間延べ患者数が118,230人で、前年度と比較して13,390人の減少となり、1日平均患者数で、323.9人と36.7人の減少となっている。
また、病床利用率は前年度と比較して7.8ポイント減の68.0%、平均在院日数は前年度と比較して1.8日減の14.3日となっている。
一方、年間実入院患者数は、7,722人で前年度と比較して52人増加している。
このことから、年間実入院患者数は増加しているものの、診療報酬改定に伴う7対1看護体制の要件厳格化等により、在院日数の短縮化が進み、延べ入院患者数が減少したものと考えられる。
- (2) 外来患者数は、年間延べ患者数が216,357人で、前年度と比較して13,480人の減少となり、1日平均患者数で、886.7人と55.3人の減少となっている。

(2) 収益的収支の状況

(単位:千円)

年度 区分	平成26年度	平成25年度	増減		備考 (増減理由の主なもの)	
	決算額(a)	決算額(b)	金額(a-b)	率(%)		
經常 収益	医業収益(I)	7,815,028	8,023,605	▲ 208,577	▲ 2.6	
	入院収益	5,376,552	5,636,622	▲ 260,070	▲ 4.6	・1人1日当たりの診療収入増の一方で、患者数減による減少 45,475円(42,825円(H25)) 2,650円 118,230人(131,620人(H25)) ▲13,390人
	外来収益	2,105,217	2,033,269	71,948	3.5	・1人1日当たりの診療収入増の一方で、患者数減による減少 9,730円(8,847円(H25)) 883円 216,357人(229,837人(H25)) ▲13,480人
	その他医業収益	333,259	353,714	▲ 20,455	▲ 5.8	・室料差額収益の減少 ・公衆衛生活動収益の減少 ・休日・夜間救急勤務医確保事業補助金の廃止
	医業外収益	849,169	852,728	▲ 3,559	▲ 0.4	
	受取利息及び配当金	0	0	0	-	
	補助金	784,873	824,908	▲ 40,035	▲ 4.9	・高度医療補助金の増加 ・基礎年金拠出金公的負担分への繰入の減少
	長期前受金戻入	39,483	0	39,483	皆増	・会計制度の改正に伴うもの
	その他医業外収益	24,813	27,820	▲ 3,007	▲ 10.8	・施設使用料・実習委託料等
	看護学校収益	161,012	150,948	10,064	6.7	
	補助金	155,115	145,199	9,916	6.8	・費用の増加に伴う、看護専門学校に係る繰入金の増加
	その他	5,897	5,749	148	2.6	・授業料・受験料等
	(A)	8,825,209	9,027,281	▲ 202,072	▲ 2.2	
經常 費用	医業費用(II)	8,644,000	8,449,054	194,946	2.3	
	給与費	4,560,994	4,374,815	186,179	4.3	・給与・手当の減額措置終了に伴う増加 ・人事院勧告による増加 ・臨時医師賃金の減少
	材料費	1,774,064	1,705,382	68,682	4.0	・外来化学療法における新規抗がん剤の使用等による薬品費 の増加 ・物品管理供給業務システム導入に伴う減少
	経費	1,267,242	1,317,840	▲ 50,598	▲ 3.8	・節水システム導入に伴う光熱水費の減少 ・修繕計画の見直しに伴う修繕費の減少 ・会計制度の改正に伴う貸倒引当金の引当て
	減価償却費	1,016,058	1,025,664	▲ 9,606	▲ 0.9	・医療機器等
	資産減耗費	2,855	2,991	▲ 136	▲ 4.5	・旧機器の除却費
	研究研修費	22,787	22,362	425	1.9	
	医業外費用	555,411	481,013	74,398	15.5	
	支払利息及び企業債 取扱諸費	256,987	271,085	▲ 14,098	▲ 5.2	・改築債の償還のうち、償還利子の減(元利均等のため)
	その他医業外費用	298,424	209,928	88,496	42.2	・消費税増税に伴う消費税雑支出の増加
	看護学校費用	157,039	149,214	7,825	5.2	
	給与費	140,888	132,675	8,213	6.2	・給与・手当の減額措置終了に伴う増加 ・人事院勧告による増加
	経費	16,151	16,539	▲ 388	▲ 2.3	
(B)	9,356,450	9,079,281	277,169	3.1		
經常損益(C)	▲ 531,241	▲ 52,000	▲ 479,241	▲ 921.6		
医業損益(I-II)	▲ 828,972	▲ 425,449	▲ 403,523	▲ 94.8		
特別利益(D)	0	0	0	-		
特別損失(E)	330,217	0	330,217	皆増	・会計制度の改正に伴う退職給付引当金の引当て(5年分割) ・会計制度の改正初年度にあたり、6月賞与のうち平成25年度 に関わる分を引当て	
特別損益(F)	▲ 330,217	0	▲ 330,217	-		
減価償却費等除く損益	481,566	1,003,383	▲ 521,817	▲ 52.0		
総収益(G)	8,825,209	9,027,281	▲ 202,072	▲ 2.2		
総費用(H)	9,686,667	9,079,281	607,386	6.7		
純損益(I)	▲ 861,458	▲ 52,000	▲ 809,458	▲ 1,556.7		

平成25年度末 累積欠損金

10,116,744 千円

平成26年度 純損失見込額

861,458 千円

平成26年度 未処理欠損見込額

10,978,202 千円

※減価償却累計額

14,884,006 千円

(3) 資 本 的 収 支 の 状 況

(単位:千円)

年 度 区 分	平成26年度	平成25年度	増 減		備 考 (増減理由の主なもの)	
	決算額(a)	決算額(b)	金 額(a-b)	率 (%)		
資 本 的 収 入	企 業 債	575,400	517,400	58,000	11.2	電子カルテ更新に係る企業債の増(平成25・26年度継続費) 平成25年度:非常用発電装置更新等に係る企業債
	医療器械及び備品購入費	575,400	423,700	151,700	35.8	
	施設改良費	0	93,700	▲ 93,700	皆減	
	出 資 金	311,979	208,794	103,185	49.4	企業債償還元金の2/3(H14以前許可分)又は1/2(H15以降許可分)。
	企業債償還元金	309,479	206,294	103,185	50.0	
	医療機械購入費	2,500	2,500	0	-	
	固定資産売却代金	836	302	534	176.8	医師住宅の解約に伴うもの
	補 助 金	0	95,011	▲ 95,011	皆減	平成25年度:地域医療再生整備事業補助金
計 (A)	888,215	821,507	66,708	8.1		
うち翌年度繰越財源の充当額(B)	0	0	0	-		
資 本 的 支 出	建設改良費	680,615	643,335	37,280	5.8	電子カルテ更新に係る費用増(平成25・26年度継続費) 平成25年度:非常用発電装置更新等
	医療器械及び備品購入費	680,615	455,901	224,714	49.3	
	施設改良費	0	187,434	▲ 187,434	皆減	
	企業債償還金	901,025	800,833	100,192	12.5	平成23年度、24年度の高度医療機器の償還開始による増 平成25年度分電子カルテシステムの償還開始による増
	投 資	176	754	▲ 578	▲ 76.7	
	住宅敷金	176	754	▲ 578	▲ 76.7	医師住宅の新規契約に伴うもの
計 (C)	1,581,816	1,444,922	136,894	9.5		
資本的収支差引額 [(A)-(B)]-(C)=(D)	▲ 693,601	▲ 623,415	▲ 70,186	▲ 11.3		
前年度繰越財源充当額 (E)	0	0	0	-		
再差引額 (F)	▲ 693,601	▲ 623,415	▲ 70,186	▲ 11.3		
消費税資本的収支調整額	0	754	▲ 754	皆減		
損益勘定留保資金	693,601	622,661	70,940	11.4		

- ※ 資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額は、過年度及び当年度損益勘定留保資金(減価償却費等)で補填する。
- ※ 消費税資本的収支調整額とは、医療器械の購入(資本的支出)にあたって支払われた消費税のうち、課税売上割合によって控除されたため納める必要がなくなり、病院内部に留保された資金を指す。
- ※ 損益勘定留保資金とは、収益的収支において減価償却費、資産減耗費等の非現金支出費用を計上することにより病院内部に留保された資金を指す。

企業債残高の状況

(単位:千円)

平成25年度末現在高	平成26年度起債額	平成26年度元金償還額	平成26年度末現在高
13,159,579	575,400	901,025	12,833,954

第Ⅳ期中期経営計画 評価指標①

1 医療の質の向上

1-1 安全・安心・納得の医療提供

	H24 実績	H25 実績	H26 実績	目標値	評価
○ 評価指標					
1 退院後6週間以内の再入院率	4.3%	5.1%	5.5%	5.2%以下	【安全・安心・納得の医療提供に係る指標】 ○退院後6週間以内の再入院率は、H24・25と目標値以下だったものの、H26についてはやや増加したため全国平均である目標を達成できなかった。この理由として、高齢者の入院割合が年々増加しており、退院後に容態が悪化するなどして再入院となるケースが多いためと考えられる。 ○褥瘡発生率及び転倒・転落発生率・負傷率は目標値である全国平均を大きく下回っており、医療安全や褥瘡に対する院内チームの取組みの効果が現れている。
2 褥瘡発生率 (新規褥瘡発生件数/延入院患者数)	1.60%	1.28%	1.28%	1.4%以下	
3 転倒・転落発生率及び負傷率 (転倒・転落発生件数/延入院患者数)	1.22‰ 0.03‰	1.18‰ 0.05‰	1.07‰ 0.03‰	2.52‰以下 0.05‰以下	

1-2 地域に根差した医療の充実

○ 評価指標					
1 紹介入院患者数 入院に占める紹介入院の割合	4,415 62.0%	4,436 59.4%	4,750 63.1%	65%以上	【地域に根差した医療の充実】 ○紹介入院の割合は、地域連携の強化に係る取組みを進めている中で紹介患者数とともに、その割合も増加しているが、目標値には到達しなかった。引き続き実入院患者の増加に向け地域連携の強化に取り組む必要がある。 ○退院患者のうち逆紹介された割合については、院内全体での取組みを進めており、H26年度は30%を超え目標を達成している。
2 退院患者に占める 診療情報提供件数の割合	29.4%	29.9%	30.9%	30%以上	

1-3 急性期・高度医療の充実

○ 評価指標					
1 救急車での来院患者に対する 入院の割合	49.9%	51.5%	48.6%	55.0%	【急性期・高度医療の充実に関する指標】 ○救急車来院のうち入院する割合は、目標値には到達しなかった。要因としては、救急車来院による入院患者は113人増加しているが、救急車搬送件数は368件増加しており、比較的軽度な患者の救急車搬送が増加したことが考えられる。しかしながら、入院が必要と判断される場合は積極的に入院させ、手厚い医療を提供する方針で従前から取り組んでいる。 ○全身麻酔による手術の医療圏内シェア率は目標値を超え23%となった。医療圏内における全身麻酔手術件数は増加傾向にあることから、新規入院患者の確保に引き続き努めていきたい。 ○がん入院患者のシェア率は患者負担の軽減のため、化学療法入院から外来への移行を強化したことなどにより、19%に留まった。しかしながら、がん検診の強化や緩和ケア病棟の開設などにより、患者数の増加を図っていきたい。
2 手術患者数(全身麻酔)及び 医療圏内におけるシェア率	1,275 20.5%	1,270 19.7%	1,556 23.5%	23%以上	
3 がんによる入院患者の医療圏内 におけるシェア率	18.9%	19.5%	19.0%	20%以上	

第Ⅳ期中期経営計画 評価指標②

2 経営の安定

	H24 実績	H25 実績	H26 実績	H26 計画値	評価
○ 評価指標					
1 医業収支比率 (医業収益/医業費用)	95.1	94.9	90.4	96.8	【医業収支比率】【経常収支比率】 ○収益面では、外来収益は、外来化学療法における新規抗がん剤の使用など、適切な医療資源を積極的に投入したことにより、診療単価が増加し増収となったものの、入院収益は短期間に集中的に医療資源の投入を行ったことで、診療単価は増加したものの、平均在院日数が短縮化により、延患者数が減少し大きく減収となったため、経常収益は202百万円の減収となった。
2 経常収支比率 (経常収益/経常費用)	99.5	99.4	94.3	100.0	○費用面では、経費は節水システムの導入や修繕計画の見直しにより減少したものの、減額措置の終了や人事院勧告に伴う給与費の増、薬品費の増加に伴う材料費の増、消費税増税に伴う消費税雑支出の増加により、経常費用は277百万円増加した。 こうしたことから、経常収支は△531百万円、経常収支比率は94.3%となり、計画値を下回ることとなった。
3 人件費比率 (人件費/医業収益)	55.6	54.5	58.4	54.0	【人件費比率】 ○給与費は、前年度に行われた減額措置の終了や人事院勧告により増加したため、人件費比率が上昇し、計画値を上回った。
4 材料費比率 (材料費/医業収益)	19.1	21.3	22.7	21.9	【材料費比率】 ○材料費は、物品管理供給業務システムの導入により診療材料費が減少した一方で、新規抗がん剤の使用などにより、薬品費が増加したため、増加している。このため、材料費比率も上昇し、計画値を上回ることとなった。

第Ⅳ期中期経営計画 その他チェック項目(参考資料)

1 医療の質の向上

1-1 安全・安心・納得の医療提供	H24 実績	H25 実績	H26 実績
○ その他チェック項目			
(1) 高齢者(70歳以上)入院率	46.6%	47.8%	48.6%
(2) 死亡患者退院率 (死亡退院患者数/退院患者数)	4.32%	4.29%	4.68%
(3) 平均在院日数	15.9日	16.1日	14.3日
(4) 肺塞栓予防措置実施率※ (肺塞栓予防管理料算定件数/実入院患者数)	18.3%	18.3%	23.0%
(5) 医療スタッフの対応に対する満足度	92.3%	95.3%	95.1%
(6) 外来平均待ち時間	37分	39分	41分

1-2 地域に根差した医療の充実

○ チェック項目			
(1) 地域医療機関との懇談会の医療機関数	32	34	45
(2) 後方病床を有する病院との連携患者数	266	292	338
(3) 地域医療機関等と共同での在宅医療等を実施した人数及び回数	1人 5回	5人 18回	6人 19回
(4) れんげいネット利用件(患者)数	103	198	164
(5) 症例検討会・カンサーボードの開催回数 他医療機関からの参加者数	20 42	17 44	19 33
(6) 院外健康教室・出前講座の実施件数	1 -	1 9	1 32

1-3 急性期・高度医療の充実

○ チェック項目			
(1) 緊急手術件数(時間外)	105	82	126
(2) 予定入院患者数	3,230	3,273	3,026
(3) 緩和ケア患者数 (緩和ケアチーム介入依頼件数)	94	97	93
(4) 外来化学療法患者数	1,536	1,429	1,689
(5) 放射線治療件数	3,089	2,996	2,736
(6) がん相談支援件数	88	275	180

2 経営の安定

○ その他チェック項目			
(1) 一日平均入院患者数(人)	358.3	360.6	323.9
(2) 患者一人一日当たり入院診療単価(円)	43,639	42,825	45,475
(3) 一日平均外来患者数(人)	940.3	942.0	886.7
(4) 患者一人一日当たり外来診療単価(円)	8,550	8,847	9,730
(5) 病床利用率(%)	75.3	75.8	68.0
(6) 医師一人一日当たり診療収入(円)	297,959	292,120	309,804
(7) 病床100床当たり職員数(人)	104.8	106.5	105.0
(8) ジェネリック採用品目数(品目)	244	253	286

※肺塞栓予防措置…

長時間足を動かさずに同じ姿勢でいると、足の深部にある静脈に血のかたまりができて、この血のかたまりの一部が血流によって肺に流れて肺の血管を閉塞してしまう(肺塞栓)危険がある。その予防のため、弾性ストッキングや空気式圧迫装置を用いて血液のうっ滞を防ぐ等の措置を行うもの。